

本郷谷市長と話しましょう

—9月27日（月）午前10時～11時まで、市役所市民サロンにて本郷谷市長との面談を行ないました。当日の参加者は、市民・保護者18名。市長との面談の場を設定するに当たって仲介して下さった松P研究会員の湯浅和子さん、毎日新聞社松戸通信部の西浦さんも傍聴されました。—

- 市長就任、おめでとうございます。16年間続いた川井市政が変わることに期待しています。本日は、現在市内の小中学校へ子どもを通わせる保護者が15名以上参加しています。松戸の教育施策・教育委員会のあり方へ、市民の声を反映してほしいと思います。本郷谷さんの市長選でのマニフェストの趣旨にも合うと思います。

＜本郷谷市長＞いただいた要望書の内容は大体わかりました。

—はじめに提出した要望書の趣旨を概略的に説明し、その後、参加された皆さんが、順番にそれぞれの要望を伝えました。その発言順のまま掲載すると読みにくくなると思いますので、内容ごとにまとめることにしました。—

1. 松戸版教育改革の検証・見直しをしてください。

今から7年前、松戸市版教育改革として学校統廃合が行なわれ、学校選択制が導入され、松戸の教育を大きく変えることになりました。その実施の仕方でも強行といわざるを得ないほど、拙速なものでしたが、その後の検証が行なわれたのかどうか、市民や保護者には見えてきません。学校統廃合の根拠となった学校の適正規模12～24学級でしたが、現在24学級を超える大規模校が4校あります。大規模校の解消についてはどう対応していくのか。またそのとき導入された学校選択制ですが、実際に選択制を利用して学区外の学校に入学する児童・生徒はそれほど増えていません。多くの子どもたちは、地域の学校へ入学しています。選択制によって地域の教育活動への影響があると考え保護者も多く存在します。選択制のメリット・デメリットをしっかりと検証する必要があると考えます。そうした検証を市民に開かれた形で行い、今後の施策に反映してください。

- うちの学校は、1学年1学級の学年が2つある。学区の見直しと学校選択制の見直しを検討してほしい。学校のすぐ前の大型マンションは、歩くと20分以上離れた他の学校が学区となっている。保護者としては、安全面からも近い小学校へ通わせたい。
- かつて常一小では、児童数が1600名以上となり、常二小・常三小と学校が増えた。今は団地内の子どもが減ったので、当時のままの学区設定には無理がある。考えてほしい。
- 学校選択制だと、家が隣同士でも別の学校に行ってしまう。

2. 今年度から始まった「5年間英語」を見直してください。

今年度から始まった5年間英語は、「小学校5・6年生で400の単語を繰り返し学習することで定着を図る」というもの。フラッシュ英語と言われているようですが、朝の15分学習の時間にテレビ画面に単語が次々にフラッシュのように映し出され、それを見て子どもが単語を習得するというようなものと聞いています。そのようなフラッシュ画面を毎日見ることが発達期の子どもたちの脳に悪影響がないのかと心配する保護者もいます。また、そのような学習の仕方では、小学校の時期から英語嫌いになる子どもが増えてしまうのではないかと危惧する保護者もいます。教育委員会は、多くの中学生が英語に苦手意識を持つのは「授業の内容に比べて学習量が少ない」ということが一つの原因ととらえ、それな

らば小学校5年生からの5年間にすれば学習量が増えるだろうと考えたようですが、その学習の質については言及していません。小学校の英語教育については、専門家の間でも意見が割れています。もう少し十分な検討が必要だと考えます。

- 掛け算もままならないうちに、英語の授業が入ってもどうかと思う。
- 小学校での英語については、私立中学受験者の保護者は「中途半端で迷惑」と言っている。
- 子どもにテレビをどう使っているかを聞いた。朝の15分学習時、スペルが赤く点滅し、発音が出るとのこと。点滅するのでフラッシュ英語と呼ばれています。
- この点滅画面が子どもの脳への影響があるのではと心配になってしまう。
- こんなやり方で子どもに英語の学力がつくのか。



3. 学校教育環境の整備を十分に進めてください。

本郷谷さんの市長選のマニフェストでも「小中学校の校舎の耐震化工事を進める」とありますし、実際に校舎等の耐震化は進められています。今後も進めていただきたいのですが、それとあわせて老朽化した校舎の補修や、トイレ・手洗い場などの水周りの整備もぜひ行なってください。トイレが壊れていても修理されず使えないままという例も聞きます。子どもたちが多くの時間を過ごす学校設備の改善に取り組んで下さい。

また、今年は特に猛暑で夏休み前後の教室は、子どもたちも先生も耐えられないような暑さになっていました。でも、松戸市内の小中学校の教室には冷房設備は全くありません。今年は全学級に大型のテレビが導入されましたが、多くの保護者は「テレビより冷房設備を」と願っています。教室でも熱中症になるのではないかと、集中力が落ちて勉強どころではないのではないかと保護者は心配しています。全教室にクーラーが設置されている他の自治体の話を聞くと、とてもうらやましくなるのは当然のことです。ぜひ、教室に冷房設備を設置してください。

- トイレが古く、汚く、臭く、整備が遅れている。先生方は同様の学校を異動しているためか「匂い・汚れ」をあまり感じないようだ。PTAでトイレ清掃を手伝ったが臭く感じた。できるだけ、きれいな中で過ごさせたい。
- 子どもたちは、眠っている時間を抜けば、学校にいる時間が一番長い。この夏の暑さの中、何の冷房設備もない学校に長時間いて辛かったと思う。「暑さ・寒さ・すさま風は根性がつく」と言っても限度がある。なるべく早く対処してほしい。
- 今年からさらに授業時間が増えて、小学校1年生でも5時間目までである。
- 先生方もへろへろしています。
- 学校内で冷房設備のある部屋は限られている。
- 9月実施の運動会は時期を変えてほしい。
- 今年は運動会を10月に延期した自治体もある。柔軟に対応してほしい。
- わが子は小学校入学時、トイレが臭くて入れず、学校ではトイレに入るのを我慢し、家まで走って帰ってきた。今は慣れてきたが、家のトイレと比べて汚いのでビックリしている。一部でも直してほしい。
- トイレの仕切り壁が壊れているなど、故障への対応が遅い。
- トイレを改善してほしい。うちの子も学校では入れず、我慢して帰宅していた。PTAでトイレ清掃をして、水の流れが悪いと気づいた。横浜市では学校の便器を洋式に取り替えた。
- 配管が悪いのではないかと。
- 学校からも要望が出ているはず。何を優先するのか、よく考えてほしい。
- クラス懇談会で、クーラーと校庭で舞い上がる砂対策としてスプリンクラーの設置について話題になった。先生へ話したが、教育委員会へ行ってほしいとの返事だった。



- 先生は自身の学習と子どもを見ることで手一杯で、学校の設備対策までは及ばないと感じた。市長は小学生の時、どう過ごされていましたが。
- 猛暑の朝、読み聞かせのために学校へ行き、教室に入るとドッと汗が出た。先生方も気分が悪くなるのではないかな。
- 子どもは、トイレは汚くて入れないと言う。学校へ行く前にトイレに入って、遅刻する子。我慢して青い顔で帰宅する子。日本人なので和式トイレを知るのはよいが、家庭ではどこも洋式トイレです。日々新しいことを詰め込まれる中で、生理的なことを我慢するのはかわいそう。
- クーラーについて。「いくら言ってもダメなので、私がつけた」と校長が自腹で扇風機をつけた。職員室で扇風機を強風にすると、何十人分もの書類が飛び、先生方は手で押さえながら仕事をしている。地球環境を考えると、クーラーはどうかとも思うが、猛暑の中、私もクーラーをつけずに家事を試してみたが、ポーッとできなかつた。あの暑さは耐えられない。議員・市職員は議論をする前に、市庁舎のクーラーを止め、子どもと同じ環境を経験してほしい。体の小さい子どもが、大人も耐えられない状況で過ごすことは、あってはならない。
- 50 インチテレビより、エアコンが先という保護者の声がある。
- 我が子は車椅子なので、5 分の休み時間ではトイレに行くのも大変。エレベーターがないので移動についていけない。千葉市では障害児が入学すればエレベーターがつく。入学時に市の教育委員会に相談したが、予算がないと言われた。太陽光発電やテレビが入れられるのなら、やる気があればエレベーターはつけられると思う。
- 中学校では、先生に一人一台パソコンがあり、それとにらめっこして部活動にも来ない。先生の一番の仕事は、子どもと向き合うことではないか。中学生は体も大きくなり、教室が狭く感じる。この夏、野球部は朝の 6 時 30 分～夜 7 時まで学校にいた。お弁当の時間だけでも、涼しいところがほしい。

4. 先生を増やしてください。

来年改訂される小学校学習指導要領の前倒しで、今年から授業時数が増えています。子どもたちへの負担も大きくなっていますが、それに伴い先生方への負担も増えています。困難な問題を抱える子どもや特別な支援が必要な子どもたちも増えており、先生はその対応に追われており、保護者から見ても先生方がとても忙しく、授業準備や自己研修の時間、一人ひとりの子どもと向き合う時間、保護者との信頼関係を築くための時間など十分に取れないと思われまます。また、一つの学校内に正規雇用と非正規雇用の先生が混在していて、職員同士のコミュニケーションも十分に取れにくい状況があります。精神的・身体的にも疲れ果て、病欠の先生も増えていると感じまます。子どもたち一人ひとりを大切に育てていくためにも、十分な先生の配置をお願いしたいと思います。

また、今年度も特別支援学級が増えていますが、それでも他市に比べるとその設置率が低いのが現状です。各学校に特別支援学級があれば、障害を持つ子どもたちが住んでいる地域の学校で学ぶことができます。また、特別支援学級の先生方がもう少し障害への専門的な知識を持っていれば、一人ひとりの子どもたちへ適切な支援ができるはずでます。特別支援学級の増設と、先生への研修を更に進めてほしいと思ひまます。

- 千葉県では、例えば教員基準数の 90% を正規雇用、残り 10% を非正規雇用とし予算を浮かして、全体数を増やしたりしている。松戸市内の小・中学校には、県の正規雇用・非正規雇用、市の非正規雇用の 3 パターンの先生が混在している。非正規の先生が担任をもつような状況も出てきている。非正規の先生が担任を持って、職員会議に出られず、先生同士の連携が取れない。職員室で泣いている若い先生、「うつ」で休む先生もいる。労働環境の厳しい中、先生方の雇用形態が異なっても、チーム一丸となることを望んでいる。
- うちの学校は、今年度児童数が 296 名。市内一小さい小学校です。クラス編成が 40 名のギューギュー詰めクラスと、17・8 名のクラスとがある。校長・教頭まで担当してまかっています。少人数学級の実施を希望します。
- 子どもが通学できなくなったが、2 ヶ月間教育研究所にお世話になり、新学期からはよいスタートが

切れた。学校では、臨床心理士の対応時間は限られ、不登校を対象としている。心の痛みを持ちながら通学している子の中には、第三者に話せる場合もある。スクールカウンセラーを増やしてほしい。

- 小学校にはスクールカウンセラーは配置されていない。中学校のみ配置されている。スクールカウンセラーは悩んでいる親・先生の頼りにもなる。配置にはいろいろな意見もあると思うが検討してほしい。先生の仕事の軽減にもなる。
- 今学校には40代の中堅の先生が少ない。新任の先生がすぐ担任を持ったり、事務処理も多い。先生方の負担が大きいように思う。先生がつぶれないようにサポートをしてほしい。心を痛め、現場を離れる先生が出ないようなシステムを作らないと、子どもに影響が出てしまう。2年間で、体調不良で休む先生に替わって、派遣の先生が1ヶ月、代理の先生が担当するということがあった。これでは子どもの心の安定は図れない。
- ベテランの先生も心が病んでやめてしまう。現場で先生方が子どもと向き合える環境を作してほしい。先生の力が発揮できるよう、下支えしてほしい。
- 地域の子どもは地域で育てられるようにしてほしい。どの学校でも、障害のある子を受け入れれば、一人で通う訓練もできる。天候の悪い中、遠い学校へ通わずに済む。最低限度のことはしてほしい。
- どこにいても、一人ひとり公平な教育を受けられるようにしてほしい。



5. 教育費の父母負担の軽減に努めてください。

松戸市の公立小・中学校の教材費などの学校徴収金は、小学校で平成20年度平均11629円（年額）、中学校で平均13871円（年額）となっています。その他に給食費や、修学旅行代・校外学習費、卒業対策費も加わります。学校徴収金以外にも算数セット、鍵盤ハーモニカ、リコーダー、習字道具、絵の具、裁縫箱などの道具類の購入、体操服、上履きや中学校の制服・ジャージの購入などにかかる負担は大きくなっています。中学校での部活費用もかかります。こうした学校教育にかかる費用の父母負担をできる限り軽減する施策を考えてください。例えば、学校教育に必要なドリル・ワークブック、社会科資料集や道徳の副読本などは公費で負担してください。算数セットは教室に備え付けにする、体操服やジャージ・上履きなどは学校指定にすると割高になるので、白いTシャツや市販のジャージなど市販のもの可とするなど、できる限り父母負担の軽減に努めてください。

- 教育費の父母負担について。「エコ」「無駄をなくす」というが、算数セットの使用は1・2年生のみ。兄弟姉妹がいなければ、捨てるだけでもったいない。学校に備え付けで用意されていれば、壊れた分やなくなった分の補充だけで済み、ごみも減る。
- 算数セットを学校に備え付けにしたり、鍵盤ハーモニカもマウスピースのみ本人が購入したりする自治体もある。父母負担軽減への配慮が必要。

【その他】

- 学校のことでないが、子育てをしていて感じたことがある。医療費の助成が6年生までに広がったのはありがたいが、市内に小児科が少ない。
- 2歳児がいるが、ベビーカーを利用していると道路側のU字溝・段差・穴・草などで通りにくい。不親切な街、不便と感じる。行きたい公園は少なく、遊具も減った。雨の日でも子ども同士で遊べる場がない。公園では同年齢と遊ぶが、異年齢とも触れ合える児童館を増やしてほしい。
- 図書館は蔵書が少なく、その場で見比べて借りることがしにくい。
- 公園には時計がない。小学校では「よい子の流れる時間は家にいるように」と指導しているが、子どもに時刻を予測させるのは難しい。
- うちの学校の給食の食器はアルミ製。熱いものだと持つことができない。ランチルームで年数回給食を取るときは、良い食器になる。日々の生活が軽視されている。日本全体の文化水準から学校は遅れている。食器が改善されないのはうちの学校が児童数400程度の小さい学校で、予算が取れないから

か？

＜本郷谷市長＞ 教育の問題は多岐にわたる。どのような仕組みを作っていけばよいのか。学校との情報の共有が必要だ。学校のやっていることも良くわからない。

- ぜひ、学校を視察してほしい。トイレも見てほしい。

＜本郷谷市長＞ エアコンやトイレについての熱い要望が伝わってきた。今は学校の耐震化を最優先で取り組んでいる。子どもたちの安全のため、非常に重要なので。

- 限られた予算の中で、全部はできないことは承知している。今日は保護者の思いを強く訴えたかった。学校教育の当事者は子ども・教職員・保護者。その当事者の思いを十分に把握した上で、優先順位をつけ、説明責任を果たしながら取り組んでほしい。
- 私たちも協力する。代替案もある。
- 今後も一緒に学べたらと思う。総合的に考えるのは難しいこと。でも、教育と子育てに力を入れる考えを市長もお持ちだと思う。

＜本郷谷市長＞ いっぺんにはできない。難しい。今日は時間がなくなり、話を聞くだけになってしまい、申し訳ない。トイレの匂いについては良くわかった。どういうまちづくりをするか、どうお金を使うか。税が入る仕組みを考えなくてはならない。

- 大変な仕事だと思うが、市民も知恵を絞る。

＜湯浅県議＞ 30年ぶりに学級定数が改善される。平成28年度までに35人学級が実現される。先生方の忙しさを改善する機会だ。国から予算もつく。

- 国の予算がつくからと言って、県で実施されている少人数学級の予算が減らされるのは困る。国の予算がついた分を上乗せしてほしい。

＜本郷谷市長＞ 今日は、聞くだけに終わってしまい、本当に申し訳ない。